



東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (East Asian-Australasian Flyway Partnership)

EAAFP 国内ニュースレター

Vol. 5 (2026年2月発行)

発行：環境省自然環境局野生生物課

業務請負者：ラムサール・ネットワーク日本

● EAAFP 第12回パートナー会議 (MOP12) が開催されました

EAAFP の第12回パートナー会議が、2025年11月8～14日にフィリピンのセブ島で開催され、渡り性水鳥の保全に関する各国での進捗状況や課題等について議論されたほか、フライウェイ・ネットワークのサイト情報票の改訂や渡り性水鳥のカラマーキングの協同的運用等に関する19本の決定書が採択されました。

環境省は、同会議において国内における取組状況を

◎詳細は、環境省の報道発表 (https://www.env.go.jp/press/press_01716.html) をご覧ください。

● EAAFP 渡り性水鳥フライウェイ全国大会が開催されました

国内の3つの種群ネットワーク(ガンカモ類、ツル類、シギ・チドリ類)を対象とする「EAAFP 渡り性水鳥フライウェイ全国大会」が、2026年2月8～9日に鹿児島県出水市(2022年湿地都市に認証)で開催されました。このフライウェイ全国大会は、EAAFPの渡り性水鳥重要生息地ネットワーク(ネットワーク参加地)の関係自治体、湿地管理者や保全活動への参加者などのステークホルダーが渡り性水鳥とその生息地の保全活動を効果的に促進し、情報交換や人的ネットワークを強化することを目的とし、年に一回程度開催しているものです。

1日目は出水ツルの越冬地(ネットワーク参加地・ラムサール条約湿地)で現地見学が行われました。まず、出水市ツル博物館クレインパークいづみを訪れ、出水のツルたちの生活や生態、歴史について、また中学生が中心となって行う羽数調査などについて学びました。その後、ツルのねぐらと採餌場の干拓地の中に立つツル観察センターでたくさんのツルたちを観察しました。雪と強風の中、家族でエサを探す様子や、雪が降ってくる方向を向いて耐える様子、群れて飛び回る様子などを堪

共有するとともに、フライウェイ規模の渡り性水鳥の保全に関する交渉に参加し、情報収集を行いました。EAAFP戦略計画(2019-2028)の実施状況について条約事務局より共有があり、その中で、東よか干潟(佐賀県佐賀市)とクパルック湿地(米国アラスカ州)の姉妹湿地の取組が、参考となる実践の好事例として紹介されました。

能しました。

2日目は、出水市ツル博物館クレインパークいづみ(出水市)において、各地域の取組や活動に関する講演会をハイブリッド形式で開催しました。

まず、環境省野生生物課の川越久史課長及び出水市商工観光部の戸崎基夫部長の開会挨拶があり、続いてEAAFP事務局(韓国インチョン市)のJennifer George事務局長及び出水市のフライウェイ姉妹都市である韓国スンチョン市のファン・ソンミ氏からのお祝いのビデオメッセージが放映されました。次に、環境省野生生物課主査(湿地保全担当)の境耕平氏から、EAAFPの概要、MOP12の報告と国内における取組について説明があり、出水市からは、出水市ツル博物館クレインパークいづみ館長堀昌伸氏より、



て、また、同館学芸主査田島奏一朗氏より出水のツルの現況について報告をいただきました。また、各地からも、クロツラヘラサギやシギ・チドリ類などの渡り性水鳥の動向や、地域における取組についての報告がありました。

講演会の後半では、ツル類専門家による発表と、ツル類重要生息地ネットワーク国内コーディネーター松本文雄氏のファシリテーションによる討論が行われました。まず、日本ツル・コウノトリネットワーク金井裕会長より鳥インフルエンザ・国内外の感染・対処状況について、また、鹿児島大学大学院共同獣医学研究科博士課程の江寄真南氏より鳥インフルエンザ・疫学調査の立場から現場への提言が共有されました。続いて、日本野鳥の会自然保護室田尻浩伸室長より、ツル類分散化に向けて気になる変化として、収穫後の水田環境に関する考察の発表がありました。さらに、タンチョウ保護研究

グループ百瀬邦和代表よりタンチョウの生息地分散化について、鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議黒澤信道副会長よりタン

チョウとの共生を目指す地域活動について発表がありました。その中で特定されたツルを取り巻く課題について、発表者で討論を行いました。鳥インフルエンザの運び屋に関連する関心が集まり、的を絞った調査が必要であること、またツル分散化については給餌なしで利用されている生息地への注目が必要で、国としても取り組んでいることなどが議論されました。

最後に、環境省の川越課長から地域・世代・立場を超えた取組みがフライウェイをより強固にする、また、鳥インフルエンザ等に対する地域の抵抗感がある場合には正しい情報を伝えていくことが大切との話がありました。関係者の皆さま、あたたかいおもてなしとご協力をいただいた出水市の皆さま、誠にありがとうございました。

来年度はぜひ自分たちの湿地で全国大会を開きたい！という自治体の方は、環境省までご連絡ください。



2日目の討論の様子

◎ 出水市立ツル博物館・クレインパークいずみ : <https://www.city.kagoshima-izumi.lg.jp/cranepark/>

● EAAFP 国内連絡会が開催されました

EAAFP に関連する国内の活動や渡り性水鳥・生息地の保全状況等について共有するとともに、課題を整理し、今後の取組の方針について検討するため、毎年、専門家を招集して国内連絡会を開催しています。今年度は、2026年1月13日に対面・オンライン併用で開催し、2025年度に行われたEAAFPのMOP12や、政府パートナーとの二国間会議の報告や、国内での3つの種群を中心とした活動、次年度の活動計の画に関して報告・意見交換を行い、また国内NGOのみみなさまの、EAAFPの実施

に関わる活動などについても情報共有していただきました。また、保全・再生の成功事例に関わる日本クロツラヘラサギネットワークも今年度から連絡会に加わっていただくことになりました。



国内連絡会全体写真